

### 3. 司会挨拶

#### 【総合司会】

**福岡県赤十字血液センター 学術情報・供給課 古川 尚実**

皆さま、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまより第 26 回福岡県合同輸血療法委員会を開催いたします。

本日司会を務めさせていただきます福岡県赤十字血液センター学術情報・供給課の古川と申します。どうかよろしくお願いたします。

開会にあたりまして、福岡県合同輸血療法委員会において代表世話人を務めます福岡大学病院輸血部部長、熊川みどり先生より開会のごあいさつを申し上げます。

### 4. 開会挨拶

**福岡県合同輸血療法委員会代表世話人**

**(福岡大学病院輸血部) 熊川 みどり**

こんにちは。代表世話人を努めております熊川です。本日は新型コロナからの 3 年ぶりの集会の開催ということで、新型コロナ第 8 波がピークは過ぎたかと思われませんが、まだまだインフルエンザの感染も広がっている中でお忙しく診療をされていると思います。その中でご出席をいただきありがとうございます。

福岡県合同輸血療法委員会は、新型コロナのパンデミック前は中小医療施設の輸血医療の底上げということで活動していましたが、新型コロナ感染の間に在宅診療や在宅輸血が増えてきているということで、規模は少し小さくはなりますが在宅輸血をされている中で適正な医療が行われるために福岡県合同輸血療法委員会としてどのような活動ができるのかということを考えて、今年の発表ということにしております。

また、この合同輸血療法委員会は、大規模・中規模の輸血を多く使われる施設の皆さま方にご参加いただいて今まで開催しておりますが、2019 年にそういう施設の方を対象としまして日本輸血・細胞治療学会の外部評価であります I & A ということについて受審を促進するという活動を 1 度行いましたが、その後コロナのこともあったかと思いますが、新規の受審施設が福岡県では 1 施設という状況であります。今後こちらのほうも受審をしていただきたいことを考えまして、今回は特別講演で I & A 受審について長崎大学病院の長井一浩先生は、輸血・細胞治療学会で I & A の活動されていらっしゃいますので長井先生のご講演を皆さんに聞いていただいて、今日の会が終わりましたら各施設に戻られて、今後の施設での活動として I & A の取り組みについて受審ができないかご検討いただきたいと思います。在宅輸血の話、小規模の施設の話と、中～大規模な施設の I & A 受審という組み合わせで、今年の会の構成を考えております。

それでは本日もよろしくお願いたします。以上をもちまして本日のあいさつに代えさせていただきます。

## 5. 挨拶

### 【司会】

続きまして、福岡県保健医療介護部、佐野正医監よりごあいさつを申し上げます。

### 福岡県保健医療介護部 医監 佐野 正

ご紹介いただきました保健医療介護部で医監をしております佐野正と申します。本日はご多用の中、第 26 回福岡県合同輸血療法委員会にご参加いただきまして、ありがとうございます。また皆さまにおかれましては、日頃から各医療機関において血液製剤の適正使用にご留意いただき、重ねて感謝申し上げます。

少子高齢化の進展により、献血可能な人口が減少する一方で、血液製剤の需要が高まっていることから、血液製剤の安定供給に欠かせない輸血用血液の確保のため、献血事業と適正使用の双方の推進が重要となっております。このため厚生労働省においては、「輸血療法の実施に関する指針」および「血液製剤の使用指針」に基づきまして、輸血療法の適正化および血液製剤の使用適正化を推進しているところです。

福岡県といたしましては、ボランティアの皆さんをはじめ、日本赤十字社や市町村と協力をしまして、若年層の献血者の確保を重要な課題として献血運動を推進しています。また、県内の安全かつ適正な輸血療法の向上を図ること目的としまして、全国に先駆けて「福岡県合同輸血療法委員会」を設置しまして情報交換会や研修会を実施するなど、血液製剤の適正使用に向けたさまざまな取り組みを行っております。この委員会に関しましては、県の赤十字血液センターに事務局を担っていただきまして、また代表世話人である熊川先生はじめ世話人の方々には大変お世話になっているところです。

さて、コロナも 3 年目を迎えております。8 波もまだ毎日 1,000 人近く陽性の報告がありますけれども、ピークアウトした感じはあります。このコロナ禍ではこれまでいろいろ日本の医療の課題が顕在化しました。特にオミクロン発生以降は、高齢者の医療体制をどうしていくかということも大きく浮き彫りにされたところです。それに合わせまして在宅医療、高齢者施設等の施設入所者、また自宅での療養されている方々、それから在宅で療養されている方々に対する医療ニーズも大きく課題として挙げられています。

そういった中で、県内約 50 のクリニックが在宅輸血を実施しておられるということになっています。院内と同様に、赤血球製剤を適切かつ安全に保管し、患者宅まで届ける必要がございます。本日の活動報告では、在宅輸血医療におきまして輸血搬送装置を輸血基幹病院とクリニック間で共有し、連携体制を構築したグループモデルなどを報告していただくこととしています。

また、後半の講演におきましては、長崎大学の細胞療法部の長井先生にお越しいいただき、先ほどありました I&A、いわゆる輸血機能評価認定についてもご講演をいただくことになっています。皆さま方にはこの機会に理解を深めていただきまして、適切な在宅輸血による推進等につつましてつなげていただければと思っております。

善意の献血による血液製剤が、より効果的かつ効率的に患者さんの回復に生かされますよう、ご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

最後になりますが、当委員会が皆さま方の今後の血液製剤の使用適正化推進の一助となりますことを祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

## 【司会】

続きまして、福岡県赤十字血液センター所長、松崎浩史先生よりごあいさつを申し上げます。

### 福岡県赤十字血液センター 所長 松崎 浩史

福岡県赤十字血液センターの所長をしております松崎でございます。本日は平日の午後というお忙しい時間にもかかわらず、たくさんお集まりいただきまして誠にありがとうございます。今までお話がありましたように、本日は在宅輸血と I&A 受審のお話があります。この 2 つはいずれも安全な輸血管理体制という点で、大病院と極小病院のことではありますが、共通した話題ではないかと思っています。このような講演会を企画いただいた熊川先生や演者の皆さまに感謝申し上げて、ご講演を拝聴したいと思います。本日はよろしく願いいたします。